

財政状況と市政の方向

平成18年7月7日に閣議決定された「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」によると、国・地方を合わせた長期債務残高が先進国中最悪の水準にあり、これを放置すれば、将来世代への負担の先送りという世代間格差の問題を深刻化させ、また、財政の持続可能性に対する疑念の高まりが経済成長事態を阻害する恐れもあるため、早急にこの問題の解決に向けた国としての方針を内外に明らかにし、財政再建に向けた具体的な改革を着実に前進させていくこととしています。その中で時間軸の目標として、2010年代初頭には国・地方の基礎的財政収支を確実に黒字化することとしています。

一方、本市財政状況においては、平成15年度より3年連続赤字決算となっております。しかしながら、前年度よりの累積を含めない単年度収支を見ても、平成17年度決算においては約2億1千万の黒字となりました。これは平成16年1月に策定した「財政健全化緊急3か年計画」で平成18年度において単年度収支均衡を図るとした目標を、市民の皆様のご理解・ご協力により1年早く達成したことになります。

本市の今後の状況としましては、歳入面については、国による国庫支出金が削減、地方交付税の見直し等による不安があり、歳出面については、人口構造のさらなる高齢化により増嵩する医療費・介護保険費負担への対応、多額の累積赤字を抱える下水道事業、病院事業の経営改善、団塊の世代の職員の大量退職、水源確保事業、まちづくり活性化対策等により財政需要はますます増大していくことなどが見込まれます。

このような状況下、持続可能な財政運営を行うためには、限られた財源の重点的、効率的な配分が必要であり、将来を見通して計画的に行政のスリム化、事務事業の取捨選択等を行う必要があります。

今年度は、「財政健全化緊急3か年計画」の最終年度に当たり、更なる財政健全化に向けての取り組みを行っておりますが、前述しましたとおり増大する財政需要のため、今しばらくは、緊縮財政になるものと見込まれ、市民の皆様には多方面で不自由をおかけするかもしれませんが、早期の累積赤字の解消、そして「元気な荒尾、力強い荒尾」、「住みやすく、明るい荒尾」の実現のため、本市の財政事情を十分にご理解いただき、今後もお支援、ご協力をお願いします。